



# いのちのたび



〒805-0071 北九州市八幡東区東田二丁目4番1号  
 Tel 681-1011 Fax 661-7503  
 HP <http://www.kmnh.jp/>  
 発行:いのちのたび博物館 ミュージアムティーチャー

## 祝・冬の特別展開催決定!



小笠原忠實

今年も残りわずかとなりました。2020年はコロナウイルス感染症対策のため、人と人の距離を考えた新しい生活様式を取り入れる中で、人と人の絆の在り方について改めて考えた年となりました。

1月2日(土)から開催される冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き-戦国を生き抜いた武士の絆」! 戦乱の世が終わると、武士たちは連携して、平和な世をつくろうと勤めました。その中で、刀は贈答品や家宝として、武士たちの絆を強くする役割を果たしました。

まさに様々なことに変化を求められている今、この特別展を通して「人と人の絆を紡ぐ」ヒントを見出すことができるかもしれません。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。



### 藤四郎吉光の名刀三口



国指定重要文化財 短刀 銘 吉光 (博多藤四郎) (文化庁蔵)



国宝 短刀 銘 吉光 (立花家史料館蔵)



短刀 銘 吉光 (宮内庁蔵) 東京文化財研究所 城野誠浩氏撮影



鎌倉時代に京都の粟田口で活躍した刀工。天下の徳川家康も彼の制作した「短刀」を愛した。(通称:藤四郎)

#### 【特別展入場料】

大人	600円 (480円)
高校生・大学生	300円 (240円)
小・中学生	100円 (80円)

#### 【常設展とのセット券】

大人	1,100円 (980円)
高校生・大学生	600円 (520円)
小・中学生	300円 (250円)

※ ( )内は、30名以上の団体のお一人様料金です。

小笠原家と黒田家の「絆」を強くした名刀「博多藤四郎」の輝き是非、お越し下さい。

# 【学芸員のよもやまばなし】

冬の特別展 ただいま準備中

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴って、博物館の春・夏・秋の特別展を中止しなければならなくなりました。しかし、予防対策を行った結果、冬の特別展を開催できるようになりました。現在、冬の特別展「名刀「博多藤四郎」の輝き-戦国を生き抜いた武士の絆」の準備を進めています。今回はその内容と準備の一端をご紹介します。

「博多藤四郎」は鎌倉時代の刀工・粟田口吉光が制作した刀のうち、福岡藩2代藩主の黒田忠之が小倉藩初代藩主小笠原忠真に贈ったもので、国の重要文化財に指定されています。忠之の嫡男光之と忠真の娘市松姫の婚姻に際して贈られました。現在の北九州市域は豊前國小倉藩領と筑前国福岡藩領から成っていましたので、両家の結び付きを示す「博多藤四郎」は北九州市ゆかりの文化財です。特別展では、この「博多藤四郎」を軸として、小倉藩と福岡藩を中心に、「戦国」を勝ち抜いたカリスマ的な初代藩主の後を継いだ2代藩主が「ポスト戦国」の様々な課題をどのように解決して、「御家」の存続と「藩」の確立を実現したか明らかにします。また刀という武器の特性と多様な意味を検証し、武士のあり方と変化を紐解いていきます。

今回の特別展に関する試みの一つとして、協力機関の担当者や大学の専門研究者に参加いただき、協力者会議を開催したことが挙げられます。8月に柳川市の立花家史料館、9月に朝倉市秋月博物館でそれぞれ開催しました。柳川では立花家に伝来した藤四郎吉光の国宝の刀(特別展出品)などを実際に鑑賞し、小笠原家・黒田家・立花家において武器が「家宝」に位置づけられていく事例を紹介・検討しました。秋月では有名な「嶋原陣図御屏風」(「戦闘図」が特別展出品)の内容について、詳細に検討しました。

「嶋原陣図御屏風」は1837年に秋月黒田家において、島原・天草一揆鎮圧200周年を記念して制作されたものです。初代藩主黒田長興が率いる秋月藩の軍勢が大活躍したことから、秋月黒田家では「藩祖」の長興の初陣であった鎮圧戦が後々まで重視されました。乱から100年近くが経過した時点で「嶋原一揆談話」などの記録が編まれ、「屏風」制作の基本資料となりました。屏風に描かれている長興の甲冑は現存していて、秋月黒田家の「家宝」となっています。

本家の福岡藩黒田家では「軍師官兵衛」と黒田如水と、嫡男で「藩祖」の黒田長政が活躍した関ヶ原合戦が最も重視されました。長政が関ヶ原合戦で使用した甲冑は黒田家の「家宝」のなかでも最上位に位置づけられました。小倉藩小笠原家の場合は大坂夏の陣が重視されました。戦国最大・最後の合戦である大坂夏の陣において、小笠原忠真は父秀政・兄忠脩とともに出陣し(初陣)、秀政と忠脩は戦死、忠真も重傷を負いつつ、徳川方の勝利に貢献しました。忠真は曾祖父の家康から「鬼孫」と称賛されました。勝戦で死ぬことが最大の武功という時代、小笠原家はのちに彦根藩井伊家に次ぐ小倉藩15万石を治める譜代大名に発展しました。小笠原家では毎年正月11日と秀政の命日である5月7日に、秀政が大坂夏の陣で着用した甲冑に拝礼する儀式がおこなわれました。このように大名家では「藩祖」の武功を顕彰し、「藩祖」の武器を「家宝」と位置づけることによって、歴史に根差した形で、後々に至るまで「御家」をまとめ、継承していこうとしたのです。



この特別展では、藤四郎吉光の刀の魅力はもちろんですが、これまでのような戦国武将の華々しい活躍と武器を紹介する展覧会とは少し異なる視点も盛り込んで、江戸時代前期の地域の歴史と刀などの武器、それを用いる武士のあり方に注目して日本の特徴的な文化を考えてみたいと思います。

歴史課学芸員 日比野 利信